

# 由

三年

画数 5  
筆順 一 冂 巾 由  
オン ユ・ユウ・ユイ  
クン よし



成り立ち

油などの「汁もの」を入れておくための「うつわ」の形をあらわした「白」に、「汁」のいみの「十」をくわえて作った字です。「油などの汁ものの「由る（たよる）」ところ」なので、「よる」といういみにつかわれます。ついでにいいますと、「宇宙」の「宙」は、「よる」いみの「由」に、「家」のいみの「宀」をくわえてつくられた字で、「ありとあらゆるものが「たよるとする家」といういみの字です。いい名前です。

### 使い方

▽そのよく日、事故にあおうとは、神ならぬ身の、知る由もなかった（「知る由もない」というのは、「知るすべがない」「知る手段がない」といういみです）。

▽ごぶじて到着の由、何よりです（この場合の「由」は、「こととうかがって」「ぐらいいいみです」）。

### 熟語例

▽理由（わけ。ものがそなたからでた、わけ。「学校を休んだ理由は、かぜをひいたからです」などというふう

に、つかいます）。

▽由来（そのものの起りや、今までに経てきたすじ道。「文字の由来を、あなたは知っていますか？」などというふう

に、つかいます）。

▽由緒（そのものの、そもその起り。いわれ。また、歴史のことをも、いいます。「由緒ある家柄」などとい

えば「古くて、伝統がある家柄」といういみになります）。

▽經由（あるところを経ること。「このバスは、市役所を経由して、〇〇駅までいきます」などというふう

に、つかいます）。

# 油

三年

画数 8  
筆順 冂 油 油  
オン ユ  
クン あぶら



成り立ち

油などの「汁もの」を入れておくための「うつわ」の形をあらわした「白」に、「汁」のいみの「十」をくわえて作った「由」と、「氵」を組み合わせて作った字です。「油つぼに入っている「水」のようなもの」といういみの字で、「あぶら」をあらわしたものです。

「水じょうの「あぶら」を「油」というのにたいして、「かたまっている「あぶら」を「脂」といってくべつします。

今は、「石油」のことも、かんたんに「油」ということ

があります。

### 使い方

▽ぼくは、油でりょうりした食べ物が好きです。油いためとか、テンプラは、大好物です。

▽「油を売る」という文句は、「なまける」といういみでつかわれます。むかし、油を売っている商人は、おもしろいことばをしやべりながら、人をよせて、商売をしました。そこで、遊んだり、なまけたりすることを「油を売る」というようになりました。

### 熟語例

▽油脂（あぶら。水じょうのあぶらと、かたまつたあぶら

ら

を、まとめて言ったもの。「油脂工業」などというふう

に、つかいます）。

▽油田（石油がとれる所。「海底に油田が発見された」などとい

います）。

▽香油（香りの良い油。体やかみの毛などに、つけます）。

▽肝油（魚の肝臓から取った油。ビタミン類などが、たくさん

あるので、薬として飲みます）。

▽製油（油の製品を作ること。石油を精製したり、香

油や肝油を作ったりすることです）。